# **NEWS RELEASE**



報道関係者各位 2025年11月11日

# 身近な「フィッシュソーセージ」で"お口の健康度"を可視化! 京都光華女子大学と株式会社ニッスイが共同研究成果を発表

京都光華女子大学(学長:高見茂)と、株式会社ニッスイ (代表取締役 社長執行役員 田中輝、東京都港区) との産学連携により実施した共同研究の成果を、来る令和7年11月15日(水)に岩手医科大学附属内丸メディカルセンターで開催される日本顎口腔機能学会第74回学術大会にて発表いたします。

本研究は、高齢化社会における健康寿命の延伸、特に「フレイル(虚弱)」予防の観点から注目される「口腔機能」に着目し、日常的に摂取する食品である株式会社ニッスイの「フィッシュソーセージ」を用いた咀嚼回数の測定が、簡易的かつ有効な"お口の健康度"の指標となり得ることを示唆するものです。

### ■本研究の背景:高まる「口腔機能」への意識と課題

高齢化が進むなか、「食べる力(口腔機能)」の低下は、フレイル(虚弱)や栄養不良の原因の一つとされています。しかし、口腔機能の衰えは自覚しにくく、初期症状は見過ごされがちなため、日ごろから自身の口腔状態を把握し、機能低下の兆候を早期に捉えて対策を講じることが重要です。また、食の軟化が進む現代において、硬いものを食べる機会が少ない若年層も、自身の噛む力がどの程度かを把握する機会が少なく、意識するきっかけがないのが現状です。

このような背景のもと、本学の歯科衛生学科、作業療法専攻、言語聴覚専攻、健康栄養学科の教員は「誰もが 手軽に、日常の中で自身の口腔機能の状態を確認できる簡便な評価法を確立できれば、フレイル予防や健康意識 の向上に貢献できるのではないか」という課題意識を持っていました。

#### ■京都光華女子大学と株式会社ニッスイの連携

この課題解決に向け、「人々により良い食をお届けしたい」というミッションを持つ株式会社ニッスイ様とのご縁があり、本学の口腔機能に関する専門的な知見と、ニッスイ様が持つ食の知見・製品開発力を融合させることで、より実践的な口腔機能評価法の開発を目指す共同研究がスタートしました。

### ■ニッスイ「フィッシュソーセージ」を活用した研究の概要と成果

本研究では、株式会社ニッスイの「フィッシュソーセージ」(ニッスイ「おさかなのソーセージ」)を検査食として使用しました。フィッシュソーセージは、スーパーなどで手軽に購入でき、かつ硬さが一定で咀嚼回数の個人差評価に適しているため、口腔機能評価の指標として有効であると考えました。研究の成果として、フィッシュソーセージを一口食べるときに「何回噛んだか」を数えるだけで、日常の食事の中で自分の「噛む力」を意識できるようになり、それが「食べる力(口腔機能)」の維持やオーラルフレイル予防につながる可能性が示唆されました。

## ■日本顎口腔機能学会 第 74 回学術大会での発表概要

学会名:日本顎口腔機能学会 第74回学術大会

日 程:令和7年11月15日(水)

場 所:岩手医科大学附属内丸メディカルセンター 入院棟

発表演題:「魚肉ソーセージを用いた咀嚼回数測定による口腔機能評価の可能性」

#### ■今後の展望と社会貢献

今回の研究結果は、身近な食品であるフィッシュソーセージの咀嚼回数を定期的に計測することで、口腔機能の変化を予測できる可能性を示唆しています。この簡便な評価法が普及することで、「早めに歯科を受診する」「食事を見直す」といった具体的な行動へと繋がり、オーラルフレイルの早期発見と予防、ひいては国民の健康寿命延伸に大きく貢献するものと期待されます。

本学は、今後もこのような産学連携を通じ、口腔機能維持・向上に関する研究を深め、社会の課題解決に貢献する実践的な研究を推進してまいります。より多くの高齢者を対象とした長期間の追跡調査を行い、この評価法の信頼性をさらに詳しく検証していく予定です。

報道各社におかれましては、本学取り組みについて、広くご案内・取材いただきますようお願い申し上げます。

«取材に関するお問い合わせ»

京都光華女子大学/短期大学部 入学・広報センター 担当:藤尾

[TEL] 075-312-1899 [FAX] 075-312-5594 [E-mail] hkk@mail.koka.ac.jp [URL] https://www.koka.ac.jp/

2026年4月共学化! 「京都光華女子大学」から 「京都光華大学※」へ ※名称変更予定

### STAY BONBU, CO-CREATE WELL-BEING.

世代を超え、願いをつなぎ続ける学園を目指して

Well-Being な社会を実現するためには多様な人々が手を取り合い共創することが必要です。 その共創のスキルを学生が育めるよう、本学園はジェンダーの壁を取り払い、男女共学化。 おもいやりの心で互いを尊重し、あらゆる人と共創できるキャンパスに進化します。